

1 出数と割合

	世帯数	提出数	提出の割合	自由記述
全校	53	37	69.8%	3人

※ 新型コロナウイルス感染症対策としての休業期間にメール配信を多発したため、メールでの連絡は最小限度にしていく方針の中でのアンケートでした。そのため必要以上にメールでの広報を行わなかった影響もあり、アンケート実施の連絡が徹底しなかったようです。

児童の安全や活動に関する情報が第一と考え、今後も少ないメール配信で対処しなければなりません。そのために、折に触れて、アンケートへの協力を呼びかけるのと同時に、保護者どうしで情報共有がなされるよう、PTA 役員を通しての広報を依頼していきたいと考えています。

★ここ2年ほど提出数が少ないので、後期は学級で集めることを検討中です。

2 アンケートの集計（別紙「学校評価アンケート経年比較」および「学校新聞号外」参照）

3 分析

※学校経営基本方針に基づき、文面を多少変えました。純粹な比較にはなりませんが、基本的な項目は同じなので、昨年度の同時期のデータと比較を行いました。

成果が表れた項目

◆1「子どもたちの学びたいという思いを大切にしたい授業づくり」

昨年度は、「めあてと振り返り」という観点で授業づくりに対するご意見をいただきました。今年は、「友達との伝え合い、共感」を観点とした。新学習指導要領のもと、「主体的、対話的で深い学び」の実践を本格化していることに対する評価をいただいたと思っています。以下がそのポイントではないかと考えられる実践内容です。

- ・週1回で定着しつつあるお話タイム
- ・ホワイトボードを使っての話し合い
- ・論理的思考をめざした本校プログラミング学習の研究において確立された授業形式「嵩山メソッド」における目的達成に向けたプログラム修正のための話し合い

◆4「道徳的実践力を高める取り組み」

臨時に開催した授業公開では、6月の「豊橋・学校いのちの日」に因み、全校で道徳授業の公開を行いました。新学習指導要領導入に向け、平成30年度から教科化に取り組んできた成果を評価して頂いたと思われます。

◆11「仲良く学校生活を送っている」

◆17「学校のことをよく話す」

長い休業期間を経て、待ち望んだ学校再開。何気ない日常でも、子どもたちにも心が豊かになる大切な経験に思えたのでしょうか。そうした感動を日々家庭で伝えられるという、いつもなら当たり前のことが、子どもたちの成長につながっていると捉えていただけたのではないのでしょうか。子どもの話を聞いていただけてありがたく思います。

◆16「学校行事に楽しく、意欲的に参加している」

野外教育活動をはじめ、さまざまな学校行事を中止にしなければならなかった状況の中、

6月には、「短なわチャレンジ大会」を実施しました。例年だとこの時期は「長なわチャレンジ大会」ですが、感染症防止のため、冬の種目と入れ替え、新たに決めただるま班の団結を深めるために実施にこぎつけました。暑さに負けず、励まし合いながら高学年と低学年で力を合わせてがんばっている姿が見られました。

感染症予防に配慮しながら、実践できる活動を探り、実践した成果が表れていると捉えています。

課題が表れた項目

◆2「体験活動の充実」

◆10「地域とともに生きる豊かな心の育成」

「感性・人間性」の育成と同時に、本年度は「体験を言葉にする」という目標を掲げました。しかし、残念ながら、5月後半までの休業と、感染症対策のための活動自粛により体験活動に対して評価できる要素が極端に少なかったようです。

しばらくこうした状況が続くであろうと予想されることから、少ない機会ですべて体験したことを価値ある経験とするかを考えなければなりません。そのためには、今年の「言語化」という目標を外すことはできません。体験を言語に置き換えるスキルを向上させるために、効率的な学習方法を研究していきたいと思えます。

◆3「プログラミング学習による論理的思考力の育成」

休業期間が長く、授業時間確保を優先しているため、昨年度の研究時のように、目に見える大きな単元の設定が十分に行えない状況となっています。そのため、今一步評価は伸びなかったように思われます。しかし、研究で培った教育的な資産は、カリキュラムや指導法の中に生きています。論理的思考の育成は、新たな時代を生き抜く子どもたちの成長には欠かせないものですし、そのサポートができる本校のスキルを十分に発揮し、その価値が伝わるように努めていきたいと思えます。

さらに、GIGA スクールのモニター校として、家庭での ICT 学習にもご協力をお願いします。

◆13「読書」

図書館は、読み物、学習センター、調べ物コーナーと3つの役割があります。今年度は、密を避けるため、利用制限(学年ごとに入っている時間を決めた)をかけたことがありましたので図書館滞在時間が物理的に短かったからだと考えられます。コロナ対策をしっかりととりながら、3つの機能が十分果たせるよう、校内で留意して指導します。ご家庭でも、親子読書を推進し、読書の幅を広げていただけると幸いです。

- コロナ禍であっても、できる活動を探し、実践する
- 体験の言語化指導の効率的な方策を
- 本校のプログラミング学習における教育的資産の活用を
- 家庭と連携した読書指導を

4 自由記述

今回のアンケートにて、自由記述欄に以下のようなご意見(3通)をいただきました。要約文にて掲載します。

- ・地域(自治会)に振り回されている感が否めない。
資源回収に多忙な先生が駆り出されている点など、児童への十分な教育に悪影響を与えているのではないかと感じてしまう。地域とのつながりは大切だが、校区とは一定の距離を置くべきでは。
- ・女性の社会進出、活躍が望まれる中、共働きの両親がいることを考慮してほしい。行事等の変更や追加に、責任ある立場で働く者には、対応し切れない場合が多い。意識を変えて配慮してほしい。
- ・宿題が、自分で決める学習なので、本人の取り組みが甘く、宿題の意図を理解していません。項目でもいいので決めていただけると勉強しやすくなるのですが…。
- ・「宿題係」をご検討いただけないでしょうか。コロナ禍でも耳にする「マスク警察」のような、相手の事情も考えず独りよがりな正義をふりかざす大人になる芽のような気がしてなりません。
- ・宿題の内容ややり方について、選択性を取り入れるなど、配慮を。子どもたちは、心も体も疲弊しています。無理のない学習のやり方をぜひご検討いただければと思います。

◎アンケートの結果を見て、本校の教育活動のめあてや方針について、今後さらに家庭にご理解いただけるように情報交換をしていきたいと思えます。